



## カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム）の記録 （対象国：アメリカ，若手研究者招へい）

### 1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」により，米国より若手研究者 42 名が，2019 年 1 月 8 日～15 日の日程で来日し，日本の政治，経済，社会，文化，歴史及び外交政策等などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。省庁講義，歴史的建造物視察，伝統文化体験，諸機関との交流等を通じて幅広く日本を理解する機会を持ち，各々の関心事項や体験について SNS を利用して対外発信を行いました。また，報告会では訪日経験を生かした，帰国後のアクションプラン（活動計画）について発表しました。

#### 【参加国・人数】

米国：42 名（ジョージワシントン大学：8 名，ペンシルベニア大学：11 名，ジョージタウン大学：8 名，ジョンズ・ホプキンス大学：8 名，シンクタンク職員：7 名）

#### 【訪問地】

東京都（全員），広島県（ジョージワシントン大学/ペンシルベニア大学），沖縄県（ジョージタウン大学/ジョンズ・ホプキンス大学/シンクタンク職員）

### 2. 日程

	ジョージワシントン大学	ペンシルベニア大学	ジョージタウン大学/ジョンズ・ホプキンス大学	シンクタンク職員
1/8（火）	【来日】			
1/9（水）	【オリエンテーション】 【講義】外務省北米局		【意見交換】 外務省・防衛省・在日米国大使館・国家安全保障局	
	【講義】慶應義塾大学	【視察】国会議事堂・江戸東京博物館	【講義】東京大学	
1/10（木）	【視察】国会議事堂・三菱重工株式会社	【視察】横田基地 【視察】石川酒造株式会社	【意見交換】政策研究大学院大学 【講義】東京都庁	【視察】横田基地・国会議事堂
	東京都から広島県へ移動		東京都から沖縄県へ移動	
1/11（金）	【視察】平和記念公園・宮島 【講義】被爆体験講話	【視察】マツダミュージアム・平和記念公園 【講義】被爆体験講話	【視察】キャンプキンザー沖縄戦歴史資料館 【学校交流】沖縄大学	【視察】キャンプフォスター・首里城

1/12 (土)	【視察】広島城 【ホームステイ 対面式】 【ホームステイ】	【視察】宮島 【ホームステイ 対面式】 【ホームステイ】	【視察】平和祈念公園 【講義】沖縄戦体験講話 【ホームステイ対面式】 【ホームステイ】	
1/13 (日)	【ホームステイ歓送会】 広島県から東京都へ移動		【ホームステイ歓送会】 沖縄県から東京都へ移動	
1/14 (月)	【視察】 JAXA 筑波宇宙セン ター 【視察】 明治神宮・原宿	【視察】 浅草・歌舞伎座ギャラ リー・明治神宮・原宿 【文化体験】 茶道体験	【視察】 浅草・明治神宮・原 宿	【視察】 浅草・東京都庁
1/15 (火)	【視察】築地場外市場 【表敬訪問】外務大臣政務官			【視察】 楽天株式会社
	【離日】	【学校交流】上智大学 【離日】	【離日】	

### 3. プログラム記録写真

#### ジョージワシントン大学

	
1/10 【視察】三菱重工業株式会社	1/11 【講義】被爆体験講話
	
1/11 【視察】宮島	1/12 【視察】広島城

ペンシルベニア大学



1/9 【視察】江戸東京博物館



1/11 【視察】マツダミュージアム



1/11 【視察】平和記念公園



1/14 【文化体験】茶道体験

ジョージタウン大学/ジョンズ・ホプキンス大学



1/9 【講義】東京大学



1/10 【意見交換】政策研究大学院大学

	
<p>1/15【表敬訪問】外務大臣政務官（ジョージタウン大学）</p>	<p>1/15【表敬訪問】外務大臣政務官（ジョンズ・ホプキンス大学）</p>

#### 4. 参加者の感想

##### ◆米国 学生

外務省で行われた最初の講義は、歴史的背景を踏まえて日本に関してお話しくださり、今日の日本についての私の理解を広げたのみならず、ユーモアを交えてあまり知られていない日本人の気質にも触れていただけだったので、一瞬のうちに二つの文化が繋がったような気がしました。宇宙法を勉強している同世代の日本の学生からは多大な影響を受けました。彼らとの交流では、お互い気軽に談笑しましたが、将来有望でカウンターパートになるであろう人材との良い関係性が築けたと思います。三菱重工のリーダー格のシニアメンバーとの討議から、宇宙産業における日米パートナーシップというだけではなく、日本の大企業は意欲的で熱心なコラボレーター（協力者）であるという印象が残りました。ホームステイプログラムの影響力は言葉では言い表せられません。ユーモア、無条件で聞き入れてくれる寛大さ、田舎の素晴らしさ、そしてホストファミリーが自分たちの文化や伝統を共有してくれた親切さに、私は感銘を受けました。ホストファミリーのお婆さんの中に自分の祖母をみて、ホストファミリーの叔父さんの中に自分の叔父を見ました。そうしていくうちに、政策や共通の目標以上に、共通の人間性というものによって我々は日本人と結びついているというその純然たる事実衝撃を受けました。

##### ◆米国 学生

講義は興味深く、我々は日本の対外政策や公共外交について理解することができました。沖縄大学訪問では、日本の学生がお互いどのように対話しているかを見せてくれました。エイサークラブとの出会いは素晴らしい経験で日頃のクラブ活動の成果が披露されました。東京都庁の訪問は、日本政府が2020年の東京五輪について真剣に考えていること、汚染や混雑などに対処するために新しく革新的な手法を実行することを再度確信させるものでした。ホームステイはプログラムの中で最も大切なもので沖縄の生活様式だけでなく、どのように戦争の影響が沖縄の人々の生活に及んでいるかが良く分かりました。

##### ◆米国 シンクタンク職員

老齢の沖縄の方がまだ子供であった第二次世界大戦当時についてのプレゼンテーションが大変興味深かったです。彼の深い洞察力は、沖縄の歴史に対する新しい見方を私

にもたらししてくれました。

外務省や在日米国大使館との会議は、私に外交面で偉大な見識を与え、日米間の強い同盟を感じることができたという点において大変有意義なものでした。また、沖縄でのホームステイは、この旅行の大いなるハイライトであり、唯一無二な経験でした。

## 5. 受入れ側の感想

### ◆受入れ大学関係者

学生からは、現地のコーディネーターや学生と、今後の政界情勢について深いディスカッションができ非常に良い勉強になったとの意見がありました。また、お互いの学生生活の話が出来て非常に楽しかったとの意見もありました。

ペンシルベニア大学と本学は協定を締結していますが、先方からの派遣数が本学からの派遣数に比べて少ないため、今回、本学との協定について説明する機会があり、大変喜ばしいことでした。本学の学生が米国のトップレベルの学生と直接話す機会を得たことは、自らの見識を広げ、自信に繋がる、非常に良い機会だったと感じます。本学の国際関係研究所の所長である教員が、学生向けに一時間にわたる講義を行ったことは、教員、大学、更には日本の高等教育機関の質をアピールできた非常に良い機会だったと感じます。

## 6. 参加者の対外発信

	
<p>視察についての発信（Instagram） 歴史の教訓から学び、それを次世代に伝えていき、核兵器のない平和な世界を構築します。</p>	<p>日本文化についての発信（Twitter） 政治家たちは大統領の立候補に関する声明を出していますが、私は寿司の作り方を知っているということを皆さんにお知らせします。こちらの方がより重要でしょう。</p>

<p>プログラムについての発信 (Twitter)</p> <p>私たちペンバイデンセンター一行は、江戸東京博物館で東京の歴史を探求し、最後は日本食を満喫してその日のプログラムを終えました。</p>	<p>視察についての発信 (Facebook)</p> <p>日本の沖縄平和祈念公園にてワシントンDCのシンクタンク研究者と一緒に。</p>

## 7. 帰国後のアクション・プラン

	<p>シンクタンク職員</p> <p>なぜ：(行う理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カケハシ・プロジェクトによる訪問や経験を通じて得た日本に関する知識を統合し、アジア関連を含む現在の研究に反映させるため</li> </ul> <p>いつ：(いつやるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年を通じて</li> </ul> <p>誰：(誰がやるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7人が個々の機関で、または個人で</li> </ul> <p>誰に：(対象は誰か)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般市民および政治家（機関を通じて）</li> </ul> <p>何を：(何をやる計画か) / どのように：(どのようにして計画を実行するか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な時に個々の機関を通じて、または自身のウェブサイトにもブログ記事を投稿</li> <li>・可能な時に、日本に関する話題について論説執筆</li> <li>・沖縄県論文コンテストに対する総評の提出</li> <li>・日本政治や日米同盟の問題に関する最新情報の把握</li> <li>・日米関係強化の一翼を担うため、個々のプラットフォームの活用</li> <li>・日本文化について更に研究</li> <li>・可能な時に日本再訪</li> </ul>
<p>ジョンズ・ホプキンス大学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手研究者として、「日米関係における公共外交」をテーマとした論文を発表する。論文は、ジョンズ・ホプキンス大学ライシャワー東アジア研究所のジャーナルに掲載予定。</li> </ul> <p>研究トピックに関して論文を執筆する際は、キャンプキンザー沖縄戦歴史資料館、沖縄平和祈念公園、外務省、東京都、政策研究大学院大学 (GRIPS)、東京大学に訪問し、那覇でホームステイした際のことを振り返る。</p> <p>調査報告書では、この訪問の成功に焦点を当て、日米関係および公共外交に関する我々の組織的な知識を拡大する。</p> <p>論文は3月1日までに執筆し、3月から4月にかけて編集して4月に発表する。</p>	